

その他の乗物を起因物とするおぼれの死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	13 ～ 14	埠頭において舢艀に石材の荷を積み込み、引き船で岸壁に曳航しているときに、舢艀の船長が見当たらなかったため捜索をしたところ、溺死していた。	50202	1～ 9
1999	3	8 ～ 9	シラス漁を終え次の漁場へ移動途中、網を海に流し網の清掃を行っていたときに、網に足が絡まり網と一緒に海中へ転落し溺れた。	70201	1～ 9
1999	3	0 ～ 1	護岸災害復旧工事のための測量を行うため、小形木船に乗船して川の水深を測っていたときに船が転覆した。	170209	1～ 9
1999	10	8 ～ 9	漁船で沖合約500m付近での最初の漁を終え次の漁場へ航行中に、船尾付近で3人が網の先端部分を流しながら清掃していたところ、網が勢いあまって海へ出たため網に乗って作業していた3人のうち2名が海へ転落し、その内1名が肺水腫で死亡した。	70201	10 ～ 29
1999	10	9 ～ 10	漁船でシラス漁をしていたときに、海中へ網を投げようとしてロープが足に絡まり海中に転落した。	70201	1～ 9
1999	10	6 ～ 7	小型定置網漁船(5人乗り込み)で出港して約10分後、船尾にいた者が行方不明となったため、海上保安庁が捜索したところ、海上で発見したが死亡した。	70201	1～ 9
		14	漁船が流氷を避けながら帰港途中、船上で網から魚を外す作業を行っていた		1～

2000	3	～ 15	者が暗礁に乗り上げた衝撃で海中に転落し、翌日遺体で発見された。	70201	9
2000	3	～ 13	12 漁港沖約3キロメートル付近の漁船の船尾において、地引き網を海中に投げ入 れて網に付着した泥などを海水で洗い流す作業をしていたところ、網に足を 取られて海中に転落し溺れた。	70201	1～ 9
2000	3	～ 16	15 河川内の接触事故を防止する警戒船で、強風で流された船を所定の位置に戻 すため碇を巻き上げていたところ碇をつなぐロープが切断したため反動でバ ランスを崩し水中に転落した。	40102	1～ 9
2000	9	～ 23	22 浚渫工事の作業を終えて午後6時ごろ母船で夕食を取り母船内の居室にひきあ げ就寝したが、翌朝食事の時間になっても食堂に来ないため、船内などを捜 したが見つからず、6日後に現場から約8km下流で水死体で発見された。	30107	10 ～ 29
2000	2	～ 16	15 工場移転のため、河岸に舢を係留しこれを一時的な荷の保管場所として利用 していたが、その舢内で作業指示を待っていた作業員が海中で死亡してい た。	50202	1～ 9
2000	7	～ 21	20 監視員として宿泊客の夜間観光のための遊覧船に乗船していて湖を約600m航 行した地点で乗船口より湖に転落し、溺死した。	140101	50 ～ 99
2000	11	～ 10	9 沖合の操業が終了し帰航中に、船から落ちかけていた袋網を引き上げようと して海に転落した。	70201	1～ 9
2001	1	～ 16	15 港から港に同僚と2名で機材センターの台船を曳航し、その後、近くに係留し ていた別の台船の除雪作業を行うため曳航船へ道具を取りに行ったときに 誤って海中に転落した。	11701	10 ～ 29
2001	1	～ 12	11 海上に係留中の船に食料品を運ぶため船長ら5名とともに出港し、到着後、右 舷中央部から降ろされた昇降用のタラップに乗り移るため船首に立っていた ときに、大波を受け海へ転落した。	80101	30 ～ 49
		0	船長を含む5名が乗船し仕掛けていた定置網交換のため網を引き上げていると		1～

2001	4	1	～	きに、船がバランスを崩して転覆し乗組員全員が海に投げ出され、間もなく1 1 名が海底で発見された。	70201	9
2001	5	14	～	停泊中の船の整備作業を単独で行っていた作業員が昼食時になっても戻らな いたため船主が船に出向いたところ、船と岸壁との間の海面に浮いているのを 15 発見した。	70201	10 ～ 29
2001	3	11	～	カニかご漁の操業を終えて帰港途中の漁船が、防波堤から南南西の沖合い約 100mの海域で激しい高波を受けたとき、船首で見張り業務中の者が海中に転 12 落し行方不明になった。	70201	1～ 9
2001	10	5	～	ホタテ採取漁のため漁船(14t、6名乗船)で漁港を出て間もなく、船尾に備え付 けられたトイレに行ったときに海に落ち、現場付近の海から遺体で収容され 6 た。	70201	50 ～ 99
2002	3	11	～	空港埋立現場で起重機船から海に転落し溺死した。	30111	10 ～ 29
2002	1	14	～	岸壁に接岸していた舢舨（全長33.5m、幅7.8m 積載量400 t）に鋼管約64 t を 積み終えた後、舢舨の船長が単独で曳航前の準備を行っていて海に墜落した。	50209	10 ～ 29
2002	4	9	～	船のエンジン修理を行う前にエンジンの不具合を確認するため、漁港沖合い 500m付近で漁船の試運転中に船から海に墜落しおぼれた。	11702	1～ 9
2002	12	11	～	4名がプレジャーボートに乗って湖の水深などの調査・測量中、風が強くなっ たので作業を中止して入江の岸に向かって走行しているときにプレジャーボー 12 トが転覆し、操縦者だけが船内に閉じ込められ死亡した。	170209	100 ～ 299
2003	4	13	～	造船所で、修繕・検査が終了した自動車運搬船の確認運転を海上で行ってい たところ、ジャイロコンパスに不具合が生じたので修理するため、連絡船に 14 乗り運搬船に接舷して乗船しようとしたときに海に転落した。	11501	1～ 9
		1		コンクリート打設のため、停泊中のコンクリートプラント船内で待機してい		10

2003	8	～	た作業員が見当たらないことに同僚が気づいて探したところ、港と船の渡し	10901	～
	2		板ごと海面に浮上した遺体を発見した。		29
2004	12	4 ～ 5	曳網漁船で漁場に向けて出港後まもなく、何らかの原因で海中に転落し、行	70201	1～ 9
			方不明となった。		
2004	1	18 ～ 19	海上で貨物船の水先案内業務を行い、投錨し、停泊した貨物船からパイロッ	170209	100 ～ 299
			トボートに乗り移るため、貨物船からなわばしごを用いて下りていたとこ		
			ろ、なわばしごの途中から海面に転落した。		
2004	3	10 ～ 11	はしけ係留場へ曳船を用いてはしけを曳航中、海中に転落して、おぼれた。	50202	10 ～ 29
2004	10	11 ～ 12	曳き船を用いてはしけを曳航中、海中に転落しおぼれた。	50209	10 ～ 29
2004	4	14 ～ 15	スクリューに漁網が絡まって航行不能になった漁船が他船に曳航されていた	70201	1～ 9
			が、絡まった漁網を外そうとした被災者が、誤って漁網に手を絡ませ、水圧		
			で回転していたスクリューに巻き取られた漁網と共に海中に引きずり込まれ		
			た。		
2004	12	5 ～ 6	カキいかだでの作業を終え、約100m航行したところで、漁船前方でカキの網	70209	10 ～ 29
			の針金を切断していた被災者が海中に転落した。		
2004	6	9 ～ 10	単独で小型漁船を操作し、沖にある養殖場へ、空のいけすを曳航していたと	70209	10 ～ 29
			ころ、船の動揺により海に転落した。		
2005	8	8 ～ 9	被災者は、魚の捕獲用定置網を設置するため乗船して1人で作業中、海に転	70201	1～ 9
			落した。		

2005	12	17 ～ 18	舳から岸壁への荷揚げ作業終了後、舳を曳航中に、海に転落した。	50209	～ 29
2005	9	16 ～ 17	船上で漁の準備中、海に転落した。	70201	～ 29
2005	1	14 ～ 15	故障したボートを曳航するため、ボート後部で、曳航のためのロープの準備作業を行っていた時に、海に転落した。	80209	1～ 9
2005	2	8 ～ 9	小型船（3トン）で出港した後、海中に転落した。	70209	1～ 9
2005	6	14 ～ 15	船体ブロックを台船上で荷揚げする作業において、荷崩れ防止のために船体ブロックに固定溶接していたアングル材をを溶断する作業を行っていたところ海に転落した。	11501	1～ 9
2005	10	7 ～ 8	チャッカ船の操舵を自動にし、船上で係留ロープの取込みをしていたところ、チャッカ船が浮きクレーンと衝突して転覆し、その際に海中に投げ出された。	30111	30 ～ 49
2006	4	13 ～ 14	大雨による災害により橋梁の橋脚に漂着している流木の撤去を行う作業中、小型ボートに搭乗し流木にロープをかける作業をしていたところ、ボートが転覆し下流に流された。	30107	10 ～ 29
2006	5	14 ～ 15	船外機の付いた小型船舶（最大乗船人員3名）を1人で操船し、漁港湾外での海水取水（牡蠣漁許可に伴う水質検査提出用）作業を行い漁港に戻る途中、漁港防波堤の灯台付近で海中に転落した。	170209	1～ 9
2006	3	15 ～ 16	近海において流し網漁の操業中、海に網を投入する作業中に網が絡まってしまったため、その復旧作業を行っていたとき、被災者は網に絡まり、網に巻き込まれそのまま網と一緒に海上に転落した。	70201	1～ 9

2006	11	9 ～ 10	船場から作業船に乗船し、川を下って整備工場へ向かう途中、船から川に墜落した。	170209	10 ～ 29
2007	11	12 ～ 13	被災者は、鮭定置漁業の船頭であり、出港前に船、港、沖の様子、風向、風速等を確認するため、港へ行った。その際、係留されている他の船の甲板を渡り、乗船予定の船を確認後、岸壁に戻る途中、他の船と乗船予定船の間で足を滑らせ海中に転落した。	70201	30 ～ 49
2007	11	10 ～ 11	被災者ら8名（含船長）は、漁船で午前6時頃、漁港を出港し、20分後に漁場において鮭定置網の撤去作業を開始した。その後、沖網部分の作業を終え、中網部分へ船を移動後に作業を開始しようとしたときに、被災者が行方不明だったことから捜索したところ、海面に浮いている被災者を僚船が発見し、帰港後、救急搬送したが死亡した。	70209	1～ 9
2007	10	4 ～ 5	天馬船（漁船1.1t）を漁船（19t）でえい航した状態で定置網漁場に向かっていたところ、天馬船をけん引していたロープが切れるとともに、天馬船が転覆し、天馬船に乗っていた漁師1名が海に投げ出された。	70201	50 ～ 99
2007	3	10 ～ 11	作業で使用する資材を台船上に取りに行く途中、岸壁から海に墜落した。	11501	30 ～ 49
2007	8	8 ～ 9	漁船2隻が一つの網を引く船引き網漁を操業中、後方を横切った貨物船のスクリューが魚網に絡まり、引っ張られた漁船1隻が転覆、1名の乗組員が船内に閉じ込められ死亡した。	70201	1～ 9
2008	5	15 ～ 16	作業員5名と共に岸壁に停泊中の起重機船の清掃作業を行っていたが、海面にうつ伏せで沈みかけているところを他の作業員が発見した。	150109	10 ～ 29
2008	7	21 ～ 22	公共コンテナターミナルに接岸された本船のデッキマンとして本船上で揚荷作業に従事していたが、デッキに積まれたコンテナのコーンが外れ難い障害があったので、当該コーンの取外し作業を行い、スプレッダーに乗って一旦岸壁に降りた。その後、再度、本船に戻るため、無線機で同僚に連絡を入れ	50202	100 ～ 299

			た後、船側を移動中に海中に転落した。		
2008	8	7 ～ 8	花火大会の花火打上げ設備等設置工事において、花火打上げに使用する台船を会場近くの突堤に接岸させるために使用する小型曳き舟を曳航作業中、小型曳き舟が沈没して一人で乗船していた被災者がおぼれた。	30309	1～ 9
2008	6	11 ～ 12	漁船（総トン数9.7t）で5人が操業中、船尾で籠を海に投入していた被災者の左足首に籠を繋ぐロープが絡まり漁船から海に転落して行方不明となった。	70201	1～ 9
2008	4	16 ～ 17	メバル刺網漁の網を海中に投網作業中、左舷船尾側に取り付けたロープを外すために甲板を移動していた時、甲板に置いてあるロープに左足をとられてロープとともに海中に転落した。操縦室にいた船主は、錨を投入するため被災者の作業場所まで行った時に海中に沈んでいる被災者を発見して引き上げたが死亡していた。	70201	1～ 9
2008	9	9 ～ 10	被災者は、漁船でシラス漁の操業中に同船上で魚網の袋部を海水に浸けて洗っていた。その際、魚網が船のスクリューに巻き付いたため、魚網と被災者が引き込まれて海中に転落した。	70201	10 ～ 29
2009	4	5 ～ 6	漁港の防波堤から約600m沖合で、被災者と事業主の2人で小型漁船（FRP船2.4t）に乗り、前日に仕掛けた刺し網を引き上げようとしたところ、右舷から大きな波をかぶり転覆し、海上へ投げ出された。事業主は救助されたが、被災者は行方不明となった。	70201	1～ 9
2009	5	5 ～ 6	被災者は、重量4.9tの漁船に乗り当該船舶の船長と2人で、漁港から1.5km沖合でのホタテの座布団籠（ホタテの養殖のため、稚貝を入れるための籠）揚げ作業を行った後、帰港する途中に甲板より海中に転落し溺死した。なお、当該船舶には救命胴衣が備え付けられていたものの、災害発生時着用させられていなかった。	70201	1～ 9
2009	2	14 ～	被災者は、川左岸の釣り場で同僚と二人で川面の清掃作業に従事していた。清掃作業は小船に乗り、たも網でごみを小船に乗せ、陸上にてごみを分別するものであった。被災者らは30分程で清掃作業を終了し、ごみの分別作業の	140309	1～ 9

		15	ため岸へ戻っている途中、同船がバランスを崩し転覆した。被災者はおぼれ、同僚は近くの栈橋に泳ぎ着いた。		
2009	4	7 ～ 8	河川の護岸工事に関し、河川に汚濁防止フェンスを展開する作業が発生したため、自己所有の船舶を操縦して海側から河川に溯上しようとしたところ、河口から約200m沖合の海上にて船舶が転覆し死亡した。	30107	10 ～ 29
2010	4	8 ～ 9	コマイ定置網漁船（0.4 t）に乗組員2名が乗り込み、沖合で網入れ作業中、波を受けて海中へ転落し、1名は救助されたが被災者はそのまま行方不明となったもの。救命胴衣を着用していなかった。	70201	1～ 9
2010	5	8 ～ 9	船外機付きの船に乗っていた労働者から、「船外機が故障し船が動かなくなった」と台船に乗っていた現場責任者に連絡があり、現場責任者は被災者に台船に繋いでいる小型船で救助に行くよう指示した。被災者は台船と小型船を繋いでいるロープを外し、小型船に乗り救助に向かう途中、繋いでいたロープの片方が湖に垂れていたため、被災者はエンジンをつけたままでロープを引き上げようとした際、バランスを崩し船から転落し溺死した。被災者は、自動膨張式の救命胴衣を着用していたが、救命胴衣に穴が開いていたためガスが抜け、救命胴衣の役目を果たさなかった。	30107	10 ～ 29
2010	7	6 ～ 7	総t数2.4 tの船上で養殖ホヤの水揚作業を行い作業の終了後、帰港したところ、被災者の姿が見えなくなっていた。搜索の結果、作業場所付近の海底で遺体で発見された。作業を終え、帰港の際、乗組員4名は、それぞれが通常着座する位置に移動し、被災者も着座位置である後方左隅への移動を目撃されたのが最後で、途中で落船したとみられるが、当時の状況は目撃されていない。船に救命胴衣を備えていたものの着用していなかった。	10102	1～ 9
2010	8	7 ～ 8	被災者は、河口の沖約3 km付近で、サケ定置網漁船（19 t）の船上から、鮭の捕獲用定置網の投入作業中、いかりに繋がったロープが足にからみ海中に転落した。同船の作業員で船上に引き上げ港に戻り、救急車で病院へ搬送したものの、溺死と確認されたもの。救命胴衣を着用していなかった。	70201	30 ～ 49
		14	沖合約50～100mの海上において、被災者と船長の2名は漁船（2 t）に乗船しハタハタ漁に従事中、船体に波を受けて船首が持ち上げられた状態		

2010	11	～	15	となつたため、船首付近で網を投下中の被災者が姿勢を崩して海中に転落したものの。被災者は救命胴衣を着用していたものの船体が被災者の頭部に激突したことにより溺死した。	70201	1～ 9
2011	5	～	18	17 カニ刺し網漁業の操業を終えて帰港中、被災者は船員室で食事を済ませ、船員室を出た後行方不明となつたもの。（平成23年12月2日支給決定）	70201	1～ 9
2011	9	～	18	17 港の埠頭に係留中のバックハウ台船内の職員食堂にて夕食を済ませ、就寝場所である曳船に戻る際、何らかの状況により渡りそこね、海中に転落、溺死した。	30111	30 ～ 49
2012	10	～	10	9 被災者はホタテ漁のためホタテ漁船に乗り、「八尺」と呼ばれる爪付きのけた網を海中に投入する作業に従事していたところ、八尺のチェーンに足が引っ掛かり、八尺と共に海中に転落した。乗組員に救助され病院に搬送されたが、死亡した。	70209	50 ～ 99
2012	2	～	8	7 被災者はタラ刺し網漁船の乗組員。出港後しばらくして、高波にあおられた被災者は海上に転落した。気象庁のデータによると、当日の波の高さは1～2mであった。	70201	1～ 9
2012	9	～	8	7 鮭漁を行うため漁場に到着後、海中に仕掛けた底建網（そこだてあみ）を引き揚げその下に漁船を滑り込ませ、網の端部から掛かった魚を取った後、再び底建網を海中に沈めるため漁船を前進させていたところ、被災者の足元にあったロープが被災者の足に絡まり、漁船から海中に転落した。なお、被災者はライフジャケットを着用していなかった。	70201	1～ 9
2012	10	～	3	2 被災者はたこ籠漁業操業漁船甲板員として乗船し、漁場に向け出港した。出港後、仕掛けの準備を終えた被災者は、船員室で漁場に着くまで休息をとっていたが、何かの理由で甲板に戻ったところ、海中に転落した。	70201	1～ 9
2012	10	～	7	6 沖合い数百mの海上においてシラス漁の操業中、被災者は船尾付近で網入れを開始したところ、網に足が引っ掛かり海中に転落した。	70201	1～ 9

2012	10	14 ～ 15	川の土砂の堆積具合を、被災者を含め3名で右岸と左岸に分かれて測量中、別の場所まで船外機付きゴムボートに乗り移動していたところ、左岸側の岸から出ていた長さ約10mほどの倒木（直径約40cm）の枝に、当該ゴムボートが当たり、その反動で被災者のみが川へ投げ出され下流へ流された。被災者は、数日後に約4Km下流で遺体で発見され、紐を引くと膨らむタイプのライフジャケットを着用していた。	170209	1～ 9
2012	9	11 ～ 12	シラス機船船びき網（通称：バッチ網）漁で、2隻を連結した1隻側に作業員3人が集まり、既に船上に巻上げられている網の掃除のため、航行中の船尾で網の中の不要な物を船外へ振るい落とす（シャクとり）作業中に、網が海面に接触し、網が流れ出したので被災者たちは退避しようとしたが、流れ出している網に体の一部が引っ掛かり、網と共に海中へ転落し溺死した。	70201	1～ 9
2012	9	11 ～ 12	シラス機船船びき網（通称：バッチ網）漁で、2隻を連結した1隻側に作業員4人が集まり、既に船上に巻上げられている網の掃除のため、航行中の船尾で網の中の不要な物を船外へ振るい落とす（シャクとり）作業中に、網が海面に接触し、網が流れ出したので被災者たちは退避しようとしたが、流れ出している網に体の一部が引っ掛かり、網と共に海中へ転落し溺死した。	70201	1～ 9
2012	1	22 ～ 23	岸壁に係留していたはしけ船のタンク（約30t）にホースで水道水を貯水していたのを止めようと岸壁に降りかけた際、はしけ船と岸壁の間の海に墜落した。	40102	10 ～ 29
2012	2	10 ～ 11	被災者は、自ら操縦する船でベルトコンベヤーを用いて生け簀（す）内に餌を撒く作業を行っていた。作業中に被災者が見当たらなくなったため、僚船が海を捜索していたところ、海底で発見された。	70209	10 ～ 29
2013	4	1 ～ 2	強風のため遊覧船を棧橋から別の棧橋へ避難させた後、船員5人は船内で食事をとり就寝した。朝になって被災者の姿が見えないので船内及び他の遊覧船内を捜したが見つからず、警察に通報しダイバーが潜水して遊覧船周辺を捜索したところ、右舷から約5m離れた湖底にうつ伏せで沈んでいる被災者を発見したが、既に死亡していた。	40102	10 ～ 29
			被災者は、船長及び同僚と共に4.9トンの船舶に乗船し、スケトウダラの		

2013	1	1 ～ 2	刺し網漁に従事中、揚網した魚が排水口に詰まっていたために、海水が甲板上に溜まり、船体が左舷に傾き転覆した。災害発生当時、天候曇り、波約1 m、風約1 m、海水温2. 1℃であった。尚、乗組員は救命胴衣を着用していなかった。	70201	1～ 9
2013	1	9 ～ 10	船長、被災者、同僚の3名は、4. 9トンの漁船で、つぶカゴ漁を行っていた。被災者が巻上機により、巻上用繊維ロープ付属のつぶカゴを引き上げた際、同ロープ先端部のアンカーに海底に投棄されていたワイヤーが引っかった。被災者は、アンカーから投棄ワイヤーを取り外すため、巻上機から同ロープを取り外し海中に投下したところ、デッキ上にたまっていたロープが動き、それに足を取られ転落した。	70201	1～ 9
2013	10	8 ～ 9	ダム湖を遊覧する水陸両用車の乗入れ場所であるスロープ付近に溜まった流木等を除去するため、被災者は一人で小型モーターボートに乗り、周囲を旋回させながら流木等を岸部に寄せる作業を行っていたところ、湖に転落した。尚、救命胴衣は着用されていなかった。	170209	10 ～ 29
2013	9	11 ～ 12	船長他2名で漁を終え帰港途中、船体（4. 9トン）の清掃作業を行っていた被災者が海に転落し、溺死した。また、被災者を助けようと船長が海に飛び込んだが溺れ、病院に搬送したものの死亡した。	70201	1～ 9
2014	11	8 ～ 9	ヘルメット潜水によるウニ漁にて、海底の潜水士の動きに合わせ、船を微速で移動させていた際、操船していた船長の意識が一時的に消失し、船が急加速し、送気管が引きちぎられ、潜水士が溺死した。	70201	10 ～ 29
2014	9	9 ～ 10	海上でホタテ移植作業中、採捕場所に向かって航行している船の側面で待機していたところ、波を受け、大きく船体が動揺し、海中に転落した。	70209	50 ～ 99
2014	8	5 ～ 6	八尺と呼ばれる鉄製の網を海底に沈める準備を甲板で行っていたところ、バランスを崩し、八尺とともに海中に転落した。尚、被災者は救命胴衣を着用していた。	70201	50 ～ 99
2014	5	8 ～	沖合バースへ作業員を運ぶ船舶にて、被災者の姿が見当たらなくなったため捜したところ、岸壁に停泊中の船舶と岸壁との間の海面に、うつ伏せの状態	40102	1～

		9	で浮かんでいるのが発見された。		9
2014	2	15 ～ 16	被災者は、カキ筏監視船に乗船。当日はカキ筏の標識灯の電池交換作業が予定されていた。夕方、被災者が乗船していた船のみが発見されたため、海上保安部に救難要請。溺死している被災者が発見された。尚、発見時被災者はライフジャケットを着装していた。	70209	1～ 9
2015	8	13 ～ 14	観光目的の川下りの船頭をしていた被災者が、船尾から船首に移動するため船の左舷を移動していたところ川に転落した。被災者はしばらくの間泳いで船を追っていたが、途中で心筋梗塞を発症し、沈んだ。同僚が川に入って被災者を川から出し、心肺蘇生を試みたが、被災者は死亡した。	40102	100 ～ 299
2015	7	17 ～ 18	被災者は曳航船に曳航されたはしけに1人で乗船し、平成27年7月22日午後4時頃に港の埠頭を出港、同日午後5時30分頃に到着地の港内港船だまりに到着したが、到着時に被災者がはしけに乗船しておらず行方が分からなくなっており、同年7月26日に川の河口付近に浮かんでいるのが発見されたもの。	50209	10 ～ 29
2015	10	10 ～ 11	取水口工事の二重鋼矢板内（5m×24.8m）の水面上で、ブラケットを溶接するためにいかだ（1.8m×4m、丸太（径約25cm×7本））に乗って3名で移動していたところ、いかだが転覆し、おぼれ、1名が意識不明の重体となり、65時間後に死亡したもの。	30199	30 ～ 49
2016	5	6 ～ 7	漁港を出港し、僚船2隻と船引き網でシラス漁をしていたところ、僚船に乗っていた被災者が海へ転落し溺死した。	70201	1～ 9
2016	4	6 ～ 7	被災者は、事業場が所有する旋回起重機船を補修するため、造船会社まで曳航する作業を行っていた。被災者は、旋回起重機船の船尾に固定した揚錨船の様子を見に行くと同僚に伝え、一人で船尾側へ向かった。その後、様子を見に行った同僚は揚錨船が転覆しているのを発見、被災者は行方不明となった。そして、被災者は沖合で遺体で発見された。	30111	50 ～ 99
		6	ホタテの養殖のため、早朝、漁船（7.9トン）に代表者ら3人が乗り込		1～

2017	11	7	み、漁港を出港し、約1.5 km沖の養殖場所に到達したとき、被災者がいないことに気づいた。後日、同漁港の近くで遺体で発見された。	70209	9
2017	8	0 1	18時30分頃、停泊中のミキサ船内の食堂で、被災者ほか2名の労働者が食事をとり、19時頃各自の部屋に戻った後、翌日、被災者が姿を見せないで捜索したところ、同日18時頃、船尾の海底（水深10 m）で発見された。	10901	10 ~ 29
2017	3	16 ~ 17	作業用筏を曳航中、強風のため臨時に筏を止める場所を頼み、係留させる作業員をボートで迎えに行く途中、海に転落した。	70209	1~ 9
2017	1	8 ~ 9	被災者は、港の沖合に係留している台船を補修するため、同港の岸壁を小型船舶で出港した。その後、同港内で、エンジンがかかったまま無人で漂流している小型船舶が発見された後、海面にうつ伏せの状態で見つかる被災者が発見された。	10901	10 ~ 29
2017	1	6 ~ 7	大型貨物船（2万2千 t）の接岸に伴う係留作業において、綱取り作業船（13 t）に2名（船長、機関士）が乗り込み、大型貨物船から降ろされた係船ロープを受け取り作業船に取り付け、岸壁の係留設備まで運ぼうとしていたところ、たるんで海中に沈んだ係船ロープが大型貨物船のスクリューに巻き込まれたため、作業船が海中に引き込まれ転覆・沈没し、投げ出された機関士は救助されたが、船長は沈没船の操舵室で発見された。	170209	30 ~ 49
2017	1	8 ~ 9	沖合約2.5 kmの海上を航行中の漁船Aが、無人で海上を巡回している漁船（総トン数：6.60 t）を発見したため、乗組員を捜索したところ、うつぶせに浮かんでいる被災者を発見したが、既に心肺停止の状態であった。	70201	1~ 9
2017	1	0 ~ 1	港沖約1.5キロメートルの海上で3隻の漁船で定置網漁をしていたが、天候が悪化したため、漁を中止し後片付け作業に入った。被災者はうち1隻（総トン数14.92トン）の船上で、片付け作業に入り、運転室の右舷でカゴを整理していたが、午前1時30分頃、強い横波を受け左舷が持ち上がり、その衝撃で海中に転落し、その後救助され、病院へ搬送されたが死亡した。	70201	30 ~ 49

2017	1	4 ～ 5	被災者は、港に舢舨を入港させる時、曳航ロープを短くする準備作業のため、舢舨のデッキ上を移動中、海に転落した。	50201	30 ～ 49
2018	11	16 ～ 17	河川内において、動力の無い浮きクレーン台船により袋詰め玉石を川底に敷設する作業中、予定の敷設を終えて次の敷設箇所に移動させるため、水中に沈めていた係留用コンクリートアンカーを引き上げようと小型船外機船（総トン数0.4 t）に搭乗した労働者2名が当該アンカーのロープを手繰っていた際、当該船外機船が転覆し、搭乗していた2名が水中に転落した。その後、1名は救出されたものの、もう1名が溺水により死亡した。	30199	30 ～ 49
2018	4	8 ～ 9	わかさぎ釣りをを行うための「ドーム船」と呼ばれる船舶を、2艘のエンジン付きボートで牽引作業中、被災者が何等かの原因により、ボートから落水したものの。ドーム船を牽引するため、ドーム船とボートを固定していた繊維ロープは切断されていたが、落水した状況を目撃した者がいないため、詳細は不明である。	40102	1～ 9
2019	10	10 ～ 12	被災者は、他の3隻と引き網漁を行っていたところ、自ら操舵していた船が方向転換する際にバランスを崩して転覆し、溺死したものの。また、同船していた同僚1名が低体温症となった。	70201	10 ～ 29
2019	5	6 ～ 8	シラス漁の準備のため、網を交換しようとして船首から船尾に網を運んでいた被災者が漁船から海に転落し溺水により死亡した災害。網交換を被災者と共に担当する同僚が網を取りに行った被災者が船上からいなくなっていることに気が付き、船長が後方を運航していた船団の他の船に捜索を指示したところ10分足らずで海面に浮く被災者が発見され救助されたが、搬送された病院で死亡が確認された。被災者は救命胴衣を着用していなかった。	70201	1～ 9
2019	2	4 ～ 6	漁船A（8.46トン）のほか漁船5隻で四艘張漁（共同漁業）を行うにあたり、漁船Aに乗船していた被災者が船首付近で網の投入作業を行っていたところ、網とともに海へ転落し行方不明となったものの。	70201	1～ 9
2020	9	6 ～	漁船に労働者4人が乗船し、漁港を出港して定置網を回収する操業海域に向かう途中、労働者1人が海に落ちて行方不明となり、2日後に心肺停止の状	70201	10 ～

		8	態で発見された。		29
2020	4	2 ~ 4	漁船に乗り、船長他2名で定置網の引き上げ作業を行っていたところ、海中に転落し水死したもの。	70201	1~ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html